授業科目名	専修武道論・実習Ⅰ－剣道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業に真剣に取り組むことによって剣道の基礎・基本を理解し正しく実践できる能力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力 **（実技指導力、専門的な知識・教養）**	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を理解することができる。	○	○	○				10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 ※自己の修錬の成果として、試合・審判活動（鹿屋杯大会含む）及び昇段審査の結果についても考慮する。 ※情意的領域のうち30％は出席状況とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）

履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、課外活動を通して自身の技倆向上とそれを検証するための大会出場や昇段等についても積極的に挑戦して下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前3	〃	大学行事に参加	
前4	〃	上１に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前7	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）

前12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前14	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後3	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後4	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後11	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名	専修武道論・実習Ⅱ－剣道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1年次の「専修武道論・実習I-剣道」で学んだ剣道の技能の錬度をより高めて実践できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 **（専門的な知識・教養）**	授業期間				定期試験	その他	割合％
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を更に理解することができる。	○	○	○				10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
	■技能的領域	正しい基本動作・応用動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 ※自己の修錬の成果として、試合・審判活動（鹿屋杯大会含む）及び昇段審査の結果についても考慮する。 ※情意的領域のうち30％は出席状況とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）

履修条件・関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、課外活動を通して自身の技倆向上とそれを検証するための大会出場や昇段等についても積極的に挑戦して下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前3	〃	大学行事に参加	
前4	〃	上１に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前7	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）

前12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前14	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後3	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後4	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後11	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名	専修武道論・実習Ⅲ－剣道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1・2年次で身につけた実技力を基盤として正しく示範し、適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 **（事業運営力、専門的な知識・教養）**	授業期間				定期試験	その他	割合％
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における発展的な知識を理解することができる。	○	○	○				10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を更に錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 ※自己の修錬の成果として、試合・審判活動（鹿屋杯大会含む）及び昇段審査の結果についても考慮する。 ※情意的領域のうち30％は出席状況とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）

履修条件・関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、課外活動を通して自身の技倆向上とそれを検証するための大会出場や昇段等についても積極的に挑戦して下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前3	〃	大学行事に参加	
前4	〃	上１に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前7	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）

前12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前14	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後3	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後4	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後11	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名	専修武道論・実習Ⅳ－剣道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力(審判等も含む)を修学全期に渡って身につけていく科目(I-IV)である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義+実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1・2・3年次で身につけた実技力・示範力をもとに対象、目的に応じて適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合%
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、事業運営力 **（指導者基礎力、専門的な知識・教養）**	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び歴史や特性に裏付けられた技能全般における知識の理解力を深めることができる。	○		○				30
	■情意的領域	正しい着具・着装や礼法に基づいた自然な立居振舞い、剣道の基本に即した技術錬度を更に向上させて実践できる。	○						30
	■技能的領域	剣道の技術的内容について概ね示範・指導ができる。	○					○ (※)	40

成績評価の基準	※認知・情意・技能の三領域をそれぞれ具体的に、出席点３０点、授業内の取り組みの成果（レポート）３０点、自己修錬の取り組み（部活動含める）４０点、合計100点で評価し、60点以上を合格（単位認定）とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）

履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習III-剣道の単位修得者が履修できる。	備考(教員メッセージ含む)	剣道を専門的に学習・修行する者として、卒業までに剣道四段位取得に積極的に挑戦して下さい。 更に、本科目受講者のうち希望する者（一定の条件を満たす必要あり）は、全日本剣道連盟が認定する剣道社会体育指導員(初級)資格(専門大学対象)を受講・取得できます。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。

オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前3	〃	大学行事に参加	
前4	〃	上１に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前7	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）

前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前14	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後2	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後3	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後4	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後5	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後8	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後9	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後10	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後11	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後12	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後13	〃	上に同じ	上記の内容について、課外活動等を活用して最低でも毎日１時間の自主学習（予習・復習）
後14	〃	実技内容の総括①	
後15	〃	実技内容の総括② 剣道具類等の管理と点検	道場及び付帯施設の管理・点検・整備